

2006 年度 小委員会活動成果報告

(2007 年 03 月 15 日作成)

小委員会名	現代建築評価小委員会		主 査 名：服部岑生 就任年月：2006 年 04 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会		委員長名：布野修司
設 置 期 間	2006 年 04 月 ~ 2008 年 03 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (簡条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際の建築事例の調査を行い、建築計画の役割を分析する ・ 現代的建築に関するクライテリアについて、建築計画の視点から検討する ・ 上記の視点から、課題となっている事例について、公開研究シンポジウム開催 		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：有		
	服部岑生(千葉大学) 宇野求(千葉大)、岡本和彦(東大) 岸本達也(慶応大学) 郷田桃代(電機大学) 鈴木毅(阪大) 鈴木雅之(千葉大学) 西村伸也(新潟大学) 吉岡陽介(千葉大) 広田直行(日大生産) 真境名達哉(室蘭工大) 水落秀木(清水建設) 森永良丙(千葉大学) 山田純(竹中工務店) 横田昌幸(NTT ファシリティーズ)		
設置 WG (WG 名：目的)			
2006 年度予算	135,000 円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価														
委員会開催数	9 回(年度内計画を含む)														
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)															
講習会															
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">1. 美浜打瀬小学校の見学・調査</td> <td style="text-align: right;">参加者数 12 名</td> </tr> <tr> <td>2. 表参道ヒルズの見学・調査</td> <td style="text-align: right;">参加者数 10 名</td> </tr> <tr> <td>3. 研究討論会開催「住宅の創造」</td> <td style="text-align: right;">参加者数 160 名</td> </tr> <tr> <td>4. 豊昭学園の見学・視察</td> <td style="text-align: right;">参加者数 9 名</td> </tr> <tr> <td>5. 研究討論会開催「大規模災害における建築計画学の役割」</td> <td style="text-align: right;">参加者数 45 名</td> </tr> <tr> <td>6. サレジオ学園の見学・調査</td> <td style="text-align: right;">参加者数 8 名</td> </tr> <tr> <td>7. 研究討論会開催「白石第 2 小学校の設計意図と手法」</td> <td style="text-align: right;">参加者数 12 名</td> </tr> </table>	1. 美浜打瀬小学校の見学・調査	参加者数 12 名	2. 表参道ヒルズの見学・調査	参加者数 10 名	3. 研究討論会開催「住宅の創造」	参加者数 160 名	4. 豊昭学園の見学・視察	参加者数 9 名	5. 研究討論会開催「大規模災害における建築計画学の役割」	参加者数 45 名	6. サレジオ学園の見学・調査	参加者数 8 名	7. 研究討論会開催「白石第 2 小学校の設計意図と手法」	参加者数 12 名
1. 美浜打瀬小学校の見学・調査	参加者数 12 名														
2. 表参道ヒルズの見学・調査	参加者数 10 名														
3. 研究討論会開催「住宅の創造」	参加者数 160 名														
4. 豊昭学園の見学・視察	参加者数 9 名														
5. 研究討論会開催「大規模災害における建築計画学の役割」	参加者数 45 名														
6. サレジオ学園の見学・調査	参加者数 8 名														
7. 研究討論会開催「白石第 2 小学校の設計意図と手法」	参加者数 12 名														
大会研究集会	1. 大会パネルディスカッション「たたかう住宅・住宅地 - 住宅地の再生 - 」 参加者数 250 名 (資料名)「たたかう住宅・住宅地 - 住宅地の再生 - 」														
対外的意見表明・パブリックコメント等	1.														
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 建築計画が深く関わっている建築の事例を見学・調査し、建築家と議論することで、新しい建築計画の役割について整理できた 2. 現代建築に関わる問題について研究討論会を開き、建築計画の機能の広がり と建築との関係について把握した。														
委員会活動の問題点・課題	1. 建築計画が実際のプロジェクトで果たしている役割と機能について、さらに調査研究を行うことが必要である。 2. 建築計画の機能について、その成果を評価する仕組みを整理することが課題である。														

